

# 須崎市職員 予防医学学ぶ

## 岡本さん 高知大博士課程で

須崎市職員の岡本恭一さん(31)が今春から高知大大学院博士課程の医学専攻で労働者の健康対策などを学んでいる。3月まで同大に5年間派遣され、大学と地域を結びつける仕事をしてきたのがきっかけ。「地域課題を解決したいという思いが強まった。予防医学を市の事業に生かしたい」と意欲を見せている。

(村瀬佐保)

### 連携派遣契機 「市事業に活用」

岡本さんは土佐高、岡山大法学部を卒業し、須崎市役所入り。2015年に市と高知大が産業振興に関する連携協定を結んだ縁で、教育委員会から同

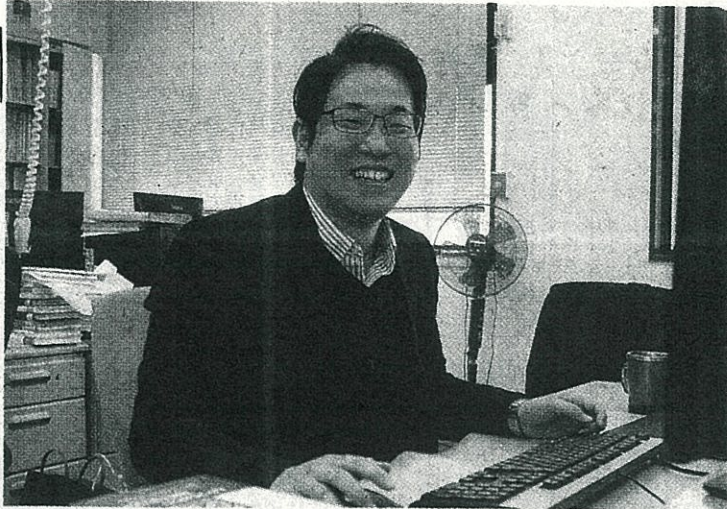
大に派遣され、次世代地域創造センターを拠点に市のフィールドワークなどに携わった。特に成果を上げたのは健康事業。市の水泳大会のスポンサーを務めた縁で整水器メーカーの日本トリム(大阪市)から連携を持ち掛けられた際は同大医学部をつなぎ、電解水素水を使った住民参加型の臨床研究を行う道筋もつけた。

こうした活動で医学部と接点が生まれ、予防医学に興味を抱いたという。18年に大学院修士課程の医科学専攻に進み、地方公務員の健康問題に関する労働力の損失をテーマに研究を続けてきた。

岡本さんは須崎市をはじめ、20歳以上の自治体職員約800人にアンケートを実施。鬱病など何らかの疾患を自覚している職員は3割に上り、要求される業務の水準が高いと思われる職場ほど職員が休めるおらず、労働力の損失にもつながっているという実態を修士論文にまとめた。

今春から市職員に復帰し、プロジェクト推進で地域スポーツの振興に励みつつ、同大の博士課程で予防医学をさらに研究中。新型コロナウイルスの影響で授業はオンライン中心のため、仕事を終えてから効率的に学べているという。

「メンタルヘルスの充実や鬱の予防策を学ぶことで、市全体の健康事業に生かしていきたい」と話している。



高知大大学院の博士課程で予防医学を学んでいる岡本恭一さん(高知市朝倉本町2丁目の次世代地域創造センター)

こうした活動で医学部と接点が生まれ、予防医学に興味を抱いたという。18年に大学院修士課程の医科学専攻に進み、地方公務員の健康問題に関する労働力の損失をテーマに研究を続けてきた。

岡本さんは須崎市をはじめ、20歳以上の自治体職員約800人にアンケートを実施。鬱病など何らかの疾患を自覚している職員は3割に上り、要求される業務の水準が高いと思われる職場ほど職員が休めるおらず、労働力の損失にもつながっている

#### ぜひよみの紙面

#### 須崎市職員 高知大で医学学ぶ

須崎市職員の岡本恭一さんが高知大大学院博士課程の医学専攻で予防医学を学んでいる。

#### 米単独でイラン「国連」制裁

ジャパンライフ福島賠償狙う ネット通販被害相談23万件

#### 高知 地域スポーツ

これも高知新聞 きょうの記者たより 19面

#### 新型コロナ関連

外務省「国際連帯税」断念

核ごみ応募検討相次ぐ

GOTO 低価格の宿苦戦

20 3 2